

1 事業名

平成29年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「体験活動支援セミナー」 ～ドキドキ わくわく ボランティア・秋～

2 趣 旨（事業の目的）

小学生を対象とした事業の企画・運営を行うためのボランティア活動に必要な知識や技能の研修を行い、ボランティアとしての資質の向上を図る。

3 期 日 平成29年9月9日（土）～10日（日）

4 参加者 23名（高校生1名，大学生22名）

5 後 援 岩手県教育委員会

6 連携・協力 盛岡大学

7 内 容

(1)日程

日時	9:00		9:15		9:30		10:00		11:45		13:00		13:30		13:50		14:45		17:30		18:45		20:15		21:00		21:30		22:30	
9/9 (土)		参加者受付	開会行事	講義 「事業運営及び活動支援についての心構え」	活動内容についての 打合せ	昼食	小学生受付	はじめの会	活動1 友だち いっぱい ちゃれんじ アイス ブレーク	活動2 ディナー ちゃれんじ 野外炊事	活動3 キャンプ ファイヤー ちゃれんじ キャンプ ファイヤー	入浴	就寝指導	振り返り	就寝準備	就寝														
日時	6:30		7:00		7:30		8:45		9:00		12:00		13:00		14:00		14:30		15:00		15:15		太枠で囲まれている部分は 小学生との活動							
9/10 (日)	起床	洗面・清掃	ついで	朝食・休憩	退所点検	活動4 オリジナル クラフト ちゃれんじ 創作活動	昼食	片付け	おわりの会	小学生解散	演習 「活動支援と 児童理解」	閉会行事	参加者解散																	

(2)・指導者

国立岩手山青少年交流の家

副主任企画指導専門職

佐々木 真里子

企画指導専門職

工 藤 祐 幸

事業推進係主任

藤 根 智 子

事業推進係

山 崎 啓 陽

・指導補助

法人ボランティア

11名

(3) 企画のポイント

法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、企画会議、事前準備を行い、「テンパークちゃれんじくらぶ・秋」の企画・運営体制を構築した。その際、支援セミナー参加者に対する支援を行うことができるように法人ボランティアの3名を統括リーダーとして配置した。また、支援セミナー参加者はグループリーダーとして、子供に近い立場で関わる体験ができるように企画した。

(4) 広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載した。開催要項に関しては、チラシとともに岩手県内の大学・短期大学、高等学校、報道機関に送付した。

(5) 運営のポイント

小学生を迎え入れることに備えて、1日目の午前中にセミナー参加者に対するアイスブレイクも交えながら、活動の支援に必要な知識や技能についての研修を行った。「事業運営並びに活動支援についての心構え」では、セミナー参加者がボランティア活動に必要な基本的スキルについて、岩手山が独自で作成したボランティアの手引きを活用して講義を行った。さらに、活動内容の打合せにおいて、法人ボランティアが作成した活動計画書を基にして具体的な場面を想定した留意点等を共通理解することで、支援の仕方についての具体的なイメージをもてるように工夫した。

また、アイスブレイク等の体験活動を、法人ボランティアがコーディネートすることにより、近い世代の若者が活躍する姿を見て、憧れを抱くような事業展開を心がけた。さらに、事業の企画運営についての事前説明及び実際の運営を法人ボランティアが担当することで、法人ボランティアとセミナー参加者が主体となって活動に取り組めるように心がけた。

一方で、事業のリスクマネジメントの視点から階層型組織キャンプを構成し、本部ミーティング、スタッフミーティング、スライドショー撮影ミーティング、生活班ミーティングなど役割を明確にした組織運営体制を敷き、安全に留意したプログラム展開を実践した。具体的には、法人ボランティア3名が統括リーダーとなり、テンパークちゃれんじくらぶ参加児童の健康調査票を基に、セミナー参加者と一緒に児童の健康面や心理面、保護者からの特記事項等を把握することで児童理解を深め、受け入れの準備を整えた。組織構築の中で、参加した児童が楽しく安全に過ごすことができるように、各班にセミナー参加者を2～3名ずつグループリーダーとして配置し、統括リーダーがフォローできる体制を敷くことで、子供との関わり方等について相談したりアドバイスしたりできるようにした。(補足資料1を参照)

8 成果とその普及

体験活動支援セミナーの参加者は、初めは不安もあったが、グループリーダーとして子供と深く関わり、真剣に向き合う中で、子供たちへの接し方やコミュニケーションの取り方など、体験から多くのことを学んでいた。事業の目的どおりの成長が得られた2日間であった。アンケートの結果も大変高い満足度であった。「講義(個人目標の設定)ー実践ー振り返りー実践ー演習」をサイクルとした2日間をとおして、「子供たちの楽しそうで、いきいきとした様子を見て、子供たちがもっと楽しめるように頑張ろうと張り切って活動するようになった。」という声も聞かれ、参加者自身が自分の変容を認識することができ、次の活動への意欲付けになった。また、子供と関わる体験は、法人ボランティアとして他の事業に参加するきっかけになると考えられる。体験活動支援セミナーを入口とした、法人ボランティアの拡充も大いに期待できると思われる。

9 今後の課題

体験活動支援セミナー参加者が、事業に参加することで子供と関わることができるとともに、グループリーダーとしての見通しや体験活動の支援に必要なスキルを高めていくことができるように、1日目の午前中に実施したセミナー参加者向けのプログラムにおいて、ボランティア養成講座「How To ボランティア」での研修内容を想起できるような説明や資料、進行場面での言葉かけが必要であった。

また、日程に社会教育活動実習生のレポート作成の時間を位置付け、事業後すぐに2日間の活動を振り返る時間を設けることで、実習生一人一人が自分なりの成果と課題を明らかにし、今後のボランティアとしてのスキルアップにつなげることができるようにしていきたい。



法人ボランティアによる企画説明



子供との出会い（アイスブレイク）



ディナーチャレんじ
(野外炊事)

【補足資料】 テンパークチャレんじくらぶ及び体験活動支援セミナー 組織図

